

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	外国語
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」の科目において、生徒同士の英語を用いた言語活動を通じた思考力,判断力,表現力等の育成を重視した指導方法及び4技能を適切に評価する評価方法の工夫改善についての研究				
ふりがな 学校名 (生徒数)	みえけんりつかわごえこうとうがっこう 三重県立川越高等学校 (957人)				
所在地 (電話番号)	三重県三重郡川越町大字豊田 2302-1 (058-364-5842)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.mie-c.ed.jp/hkawag/				
研究のキーワード	「書く」活動,技能統合,「書くこと」に係るパフォーマンステスト,評価規準の作成,評価に係る作業の効率化				
研究結果のポイント	○「まとまった長さの文章を書く力」を統合的な言語活動を通して育成する授業に係る研究・実践 ○「書くこと」に対する生徒のモチベーションの向上 ○「書くこと」における評価方法の研究 ○ライティングの評価規準の開発・活用及び採点方法の工夫・改善による評価プロセスの効率化 ○英語科としての統一的な評価規準や指導方法の確立				

1 研究主題等

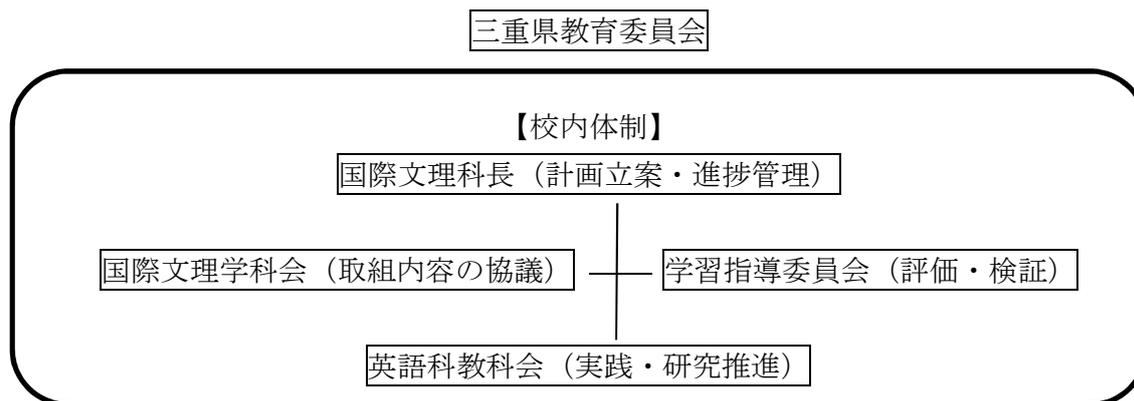
(1) 研究主題

「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」における「書くこと」の指導方法の改善及び評価方法の効率化の研究

(2) 研究主題設定の理由

本校は、英語関連学科である国際文理科の設置校であり、創立以来、先進的な英語教育の学習・指導方法について研究・実践を重ねてきた。特に国際文理科やその前身となる英語科では、コミュニケーション能力の向上、異文化への理解に向け様々な学習プログラムを開発してきた。今後は、新学習指導要領を見据えて、カリキュラム・マネジメントに取り組みつつ、4技能を総合的に育成するための学習・指導方法及び評価方法の研究を進めていく必要がある。特に、本校普通科では国際文理科に比べ授業時間数が少なく、また「書くこと」の指導方法や評価方法が確立されていないこともあり、多くの生徒はまとまった英文を書くことへの苦手意識が高い。本研究では、ピア・フィードバック、ディスカッション、プレゼンテーション等の主体的・対話的で深い学びにつながる多様な言語活動を取り入れながら、1年次から統合的に「書くこと」の指導を行うことで、生徒の書く力を更に伸ばすとともに生徒に4技能をバランスよく習得させるため、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成30年度	4月	・第1回生徒対象自己評価アンケートの実施
	6月	・第1回校内授業研究協議会
	7月	・「書くこと」に係るパフォーマンステストの実施
		・第2回生徒対象自己評価アンケートの実施
	10月	・第2回校内研究協議会
		・第3回校内授業研究協議会
	11月	・ベンチマーキング（名古屋外国語大学外国語学部 太田光春教授の授業見学）
	12月	・第4回校内授業研究協議会
		・「書くこと」に係るパフォーマンステストの実施
	2月	・GTEC for Students Basic 実施
		・第3回生徒対象自己評価アンケートの実施
	3月	・第5回校内授業研究協議会
	・教育課程研究指定校事業研究協議会	
	・「書くこと」に係るパフォーマンステストの実施	
	・第4回生徒対象自己評価アンケートの実施	
	・教員対象アンケートの実施	
	・中間報告書の提出及び次年度の取組の考察	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 「書くこと」と他の技能を結び付けた統合的な言語活動の指導と評価の研究
- イ 「書くこと」に係るパフォーマンステストの評価基準の作成とその基準に基づく評価の実施
- ウ 定期考査におけるライティングのテストの出題とその妥当性及び実用性の検証

(2) 具体的な研究活動

- ア 「書くこと」と他の技能を結び付けた統合的な言語活動の指導と評価の研究
 - ・ 書く前の活動として、これから書くトピックについて、質問しあったり自分の考えを少人数のグループで話し合ったりする活動を多く取り入れた。
 - ・ 教科書本文の内容を要約し、英語で表現する活動を取り入れた。

- ・ 生徒同士で書いたものを読み合い、英語でコメントを書いたり、感想を言い合ったりする活動を取り入れた。
 - ・ 生徒用の評価規準を使用して、内容、構成、文法等について生徒同士でチェックし合う活動を取り入れた。
 - ・ 生徒の自己評価アンケートを学期ごとに行い、英語学習や4技能の習得に対する意欲等の変容を検証した。
 - ・ GTEC for Students Basic を活用して、生徒の英語力の伸びを検証した。
- イ 「書くこと」に係るパフォーマンステストの評価規準の作成とその規準に基づく評価の実施
- ・ 教科会等において、評価規準の作成・改善に係る協議を重ね、より効率的・効果的に生徒の評価及びフィードバックを行える体制の構築を進めた。
 - ・ 正確性 (Accuracy) に係る指導と評価について、生徒に共通する誤りをクラス全体にフィードバックするなどの生徒の気づきを促す指導方法や、減点法ではない評価の仕方などを検討した。
 - ・ 「書くこと」の指導と評価について、大学教授や県教育委員会事務局指導主事の指導助言のもと、5回にわたって校内で研究協議を行った。
- ウ 定期考査におけるライティングの問題とその妥当性及び実用性の検証
- ・ 定期考査において、教科書の題材に関連するテーマから出題した。
 - ・ 書く目的が明確で、授業内容を反映した出題となっているか検証し、改善を図った。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 昨年度までは各教員が独自の指導方法で授業を行っていたが、本研究をとおして、教員間のコミュニケーションが活発になり、「書くこと」において共通した指導方法を確立することができた。また、校内での授業研究協議会や教科会での話し合いにより、「書くこと」の指導を中心とした英語教育改善に対する理解が深まり、教員としての資質・能力を高めることが出来た。
- 評価規準を作成するなどの「書くこと」の効率的な評価方法を検証することで、文法やスペリングのミスだけを指摘するような従来の減点法の採点から脱却することができ、教員の負担も減った。
- 技能統合型の言語活動を授業に多く取り入れたことで、書く活動の時間が増加した。また、ライティングの問題を定期考査で出題するなど、指導と評価の一体化に向けた取組を進めることができた。
- 生徒の自己評価アンケートから、英語を苦手と感じる生徒は増えている一方で、英語力を伸ばしたいと考えている生徒の数は減少しておらず前向きな生徒が多いこと、4技能のうち、授業で書く力が一番身に付いたと回答する生徒が多い (37.2%) こと等が分かった。
- 12月に実施したGTEC for Students Basicの結果では、ライティングスキルについては、普通科の生徒国際文理科の生徒と同レベル4(平均115.8)に達しており、入学時と比較して大きく向上していることがわかった。また、国際文理科の生徒については、昨年度より平均点が5.48点上昇した。



- 評価規準の改善を進め, accuracy よりも fluency を優先課題とし, 量と内容に重点を置いた「書くこと」の指導を行ったが, 文法や語彙の間違いをどこまで許容するか検討する必要がある。
- 具体的な言語の使用場面を設定し, 読み手, 目的, 場面に応じて生徒が書く活動に取り組めるよう, タスクを工夫・改善する必要がある。
- 読み手, 目的, 場面に応じたタスクに基づくライティングの年間指導計画を作成する必要がある。
- 特定の読み手, 目的, 場面における定型表現を整理し, 生徒にモデルとして提示できるようにする必要がある。
- 論理の展開や表現方法を工夫しながら書くことができる能力を伸ばすための指導に係る実践研究が必要である。

4 今後の取組

「書くこと」への苦手意識をなくし, 意欲的にまとまりのある文章が書ける生徒を育成するための指導及び評価方法の研究・開発を行うとともに, 読み手, 目的, 場面別のタスクに基づくライティングの年間指導計画を作成したいと考えている。また, 新学習指導要領を見据えて, 主体的・対話的で深い学びにつながる多様な技能統合型の言語活動を授業に取り入れながら, 英語科の教員全員で授業改善に取り組んでいきたい。